

第4回 昭島市男女共同参画推進委員会

議 事 要 旨

〔日 時〕 令和5年7月21日（金）18：30～20：00

〔場 所〕 アキシマエンス校舎棟 201 会議室

〔出席者〕

1 委員： 柴田邦臣委員長、掛川亜季副委員長、松川靖弘委員、小林美和委員、長谷部高史委員、牧野愛子委員、向井翔兵委員

欠席委員：若林とき子委員

2 事務局

滝瀬子ども家庭部長、曾根女性活躍支援担当課長、渡邊男女共同参画センター担当係長

3 傍聴者 0名

〔配布資料〕

- 1 昭島市男女共同参画推進委員会委員名簿
- 2 昭島市男女共同参画プラン 令和4年度進捗状況報告書、モニタリング調査一覧
- 3 令和4年度進捗状況 目標Ⅰ～Ⅳ担当部課評価内訳
- 4 令和4年度進捗状況 担当課評価点数内訳
- 5 昭島市男女共同参画推進委員会評価基準
- 6 進捗状況委員評価及び意見一覧

〔議事要旨〕

1 開会

子ども家庭部長より開会の挨拶

新委員への委嘱状交付

事務局職員自己紹介

資料の確認

各委員の自己紹介

2 議題

(1) 男女共同参画プラン令和4年度進捗状況調査結果について

◇事務局より男女共同参画プランの説明

男女共同参画プランは男女共同参画社会の実現及び女性の活躍推進並びにSDGsの目標達成に向けた施策の積極的な展開を進めながら、配偶者等からの暴力（DV）等の被害や性暴力等の根絶に向けての施策を推進するものである。市の基本的な考え方と施策を総合的、計画的に推進するための事業計画であり、令和3年度から令和12年度の10年間のプランとして策定されている。

本計画は、基本目標が4つあり「1多様性を認め合い、すべての人が尊厳をもって暮らすことができる意識づくり」「2女性活躍とワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進」「3あらゆる暴力の根絶と被害者支援」「4すべての人が安全・安心に暮らせるまちづくり」を掲げており、目標ごとに

具体的な主要施策・主要事業を位置づけ、計画の推進を図っている。この男女共同参画推進委員会では前年度の市の実施事業を評価していただくものとなっている。

では目標毎にご説明させていただく。「目標1 多様性を認め合い、すべての人が尊厳をもって暮らすことができる意識づくり」こちらは全ての人自分らしく生きることができる社会を目指し、男女参画に関する理解促進に向けた情報提供、多文化共生、固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発や情報提供、性の多様性も含めた人権意識の啓発を挙げている。

施策について担当課評価はa十分である、b概ね十分である、の合計が、令和3年度83.8%から令和4年度は86.5%に上がっており、事業が進められていることがわかる。ただ男女共同参画の理解促進やSDGs多文化共生の推進、固定的な役割分担の意識解消は、担当評価が下っている。これは事業を継続して実施しているが、更なる取り組みが必要と考えられるため、十分から概ね十分に代わったための数字と見られる。その中で、外国人に対してや、多様性、メディアリテラシー等啓発に関してCと評価している部署がいくつか見受けられた。No.4の広報課は在住外国人への各種広報やNo.8女性活躍支援担当課のメディアリテラシー向上の啓発、No.11福祉総務課の民生委員等の男性への啓発、No.14女性活躍支援担当の多様性の情報提供などはC評価となっている。これらは、必要としている人々に必要な情報をどのように、いかに多くの方に提供していくかが今後の課題となり、委員の皆様からぜひご意見をいただきたい。

「目標II 女性活躍とワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進」は今回のプランにおいて新たに【昭島市女性活躍推進計画】を包含するものとして設定されたものである。こちらは女性の活躍推進に向けたポジティブ・アクションの啓発、女性のキャリア形成に向けた支援、市職場審議会等における女性参画の推進、地域の女性リーダーの育成を挙げるほかそこにかかわる男性の家事・育児・介護参加の推進やワーク・ライフ・バランスについて組み込んでいる。No.21職員課の市女性の管理職の女性比率については、令和3年度の24.3%の時点で目標値の20%を超えており、昨年の推進委員会でも高く評価をいただいているところであるが、今回も28.4%となった。今後は地域での女性参画や女性のキャリア形成についてさらに注力が必要と思われる。またNo.28職員課の市男性職員に対する育児・介護休業の取得促進について、育休取得者が令和3年度から令和4年度は取得率が24.1%減少した。こちらについて主管課では、情報提供に努めると共に今年度はイクメンパンフレットを改定中とのことである。No.31学童クラブの充実、子ども子育て支援課では学童クラブの待機児童数が17人から39人に増加したことについて、オンラインによる利用申請を開始したことや、コロナ感染症の一定の収束による働き方の変更による利用者の増加と考え、今後様々な対応策を検討していきたいとのことである。No.33介護福祉課では、対象が高齢者であることもあり、コロナのため介護支援のための教室や介護者間の交流を促せなかったためdとなっている。令和5年度には開催できるよう調整していくということである。

目標2の施策の担当課評価はa、bの合計が、令和3年度100%から令和4年度92.3%に下がり、今回はdの評価が2件あった。資料4でも、目標2-6-②が3点下がっておりこれはコロナ禍につき事業実施ができなかったためとのことであり、令和5年度は活動を大きく進めていきたい部分である。【事務局】

目標I 1 男女共同参画に関する理解の促進と意識の醸成

①男女共同参画に関する理解の促進に向けた情報提供・啓発の推進

◆資料2で、プラン策定時の数値とそれぞれの目標値と並んで、現状値というものがあったと思うが、今回の資料では削除されているのか。以前の資料には記載されていたと思う。現状値というのは、この目標に対して今、現状がどうなのか分かる。今回それが見えないため、その評価に対して数値が無く、評価しにくい。【長谷部委員】

◇市民の意識調査を行った数値を入れており、市民意識調査を行っていないために、記載しない形になる。

目標値の部分は、こちらの女性活躍支援担当課の方で中間年ということで調査をかけるようになるため、その後令和7年度の現状値が記載されることになる。毎年数値を確認できるものは、モニタリング値となる。【事務局】

☆目標指標を持っている意味がなくなってしまうので、今後検討していく必要があるかもしれない。【柴

田委員長】

◆評価：良 具体的に良かったと思えるところは、例えばNo.1女性活躍支援担当の課題と今後の予定のところは小規模のセミナーを多数開催したいという今後変えていく部分や、No.3職員課の課題と今後の、職場研修内容をフィードバックしていくこと、そのように具体的に書かれている点を評価した。No.3女性活躍支援担当も高評価とした。ただ、やや停滞気味の部分もあるとは考える。【長谷部委員】

◆評価：良 努力されていると考える【小林委員】

◆評価：良 職員向けの研修受講者が前年よりも増加していることは評価できる。情報提供や広報は継続して実施していただけると良いかと思う。当該項目以下、全体に共通することであるが、【課題】であげたことは、そのままにすることなく、費用対効果を検討して解決していただきたい。【向井委員】

◆評価：優 bの担当課評価が多いが、課題と今後の予定が記載されているので優と考える。【牧野委員】

◆評価：優 女性活躍支援担当の工夫が評価できる。【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：良 女性活躍支援担当のセミナーについて定員を下回る参加者数ではあったが、パンフレットの配付等を通じて男女共同参画センターの周知と来所のきっかけとなったということで、効果があったと考える。【松川委員】

★評価：良 工夫をされているところが多いと感じる、職員課の全職員対象の研修の受講者が増えたことは素晴らしい。工夫をしながら取組を進めている。より一層の進展を期待する。No.1女性活躍支援担当のセミナーの定員が埋まらなかった要因はテーマの設定以外にどのようなものがあるか分析し、より多くの市民が参加する企画となることを期待する。No.2女性活躍支援担当の男女共同参画に関する男性の理解の促進は、さらに工夫が必要と考える。【掛川副委員長】

☆評価の決定：良 よく工夫しているという委員の意見である。【柴田委員長】

②SDGs等国際的視点の反映と多文化共生の推進

◆評価：可 具体的な方向性が読み取れない。【長谷部委員】

◆評価：良 cの担当課評価はなぜかと思っていたが、内容的に仕方がないと思う。【小林委員】

◆評価：良 資料作成時の質問に関し、回答を記載し感謝する。取組の内容から一定の効果があったものとみられ、評価を良とした。担当評価がCとなった事業は、どのような点が課題であるかを明確にし、特に、提供している情報が古いものにならないよう適宜内容の更新が求められると思う。【向井委員】

◆評価：良 担当課評価Cがあったため良と考えたが、事務局からの説明等からも良とする。【牧野委員】

◆評価：優 SNS等を活用して良い。【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：良 ウクライナ難民への対応等、年度当初計画になかったことに対応している事に好感を持った。このような機能的な組織であってほしいとして良とした。【松川委員】

★評価：可 市独自の事業ではなく、区や都などの事業の活用を考えているようである。もう少し工夫ができるのではないかと考える。【掛川副委員長】

☆評価の決定：良 【柴田委員長】

③関係法令・制度に関する情報提供及び制度・慣行の見直しに向けた啓発・情報提供

◆評価：良 SNSの利用にも取り組んでおり、評価は良ではあるが満足している。【長谷部委員】

◆評価：優 情報提供について良いと思う。【小林委員】

◆評価：優 デジタルとアナログの双方で積極的な情報提供をしていると感じる。去年の委員会でも話が出たと思うが、Twitterや各種SNSの利用の年齢層が徐々に変わってきている。Twitterは10代の利用者数がそこまで多くなってきているとも聞く。広報する内容によって広報媒体を変えていく検討も必要あると感じた。【向井委員】

◆評価：優 効果というのが評価しづらい内容なので、担当課評価を信じるようにしました。昭島市のアプリがあるが、LINEはどうなのか。【牧野委員】

◇LINEはまだ取り組んでいない。【事務局】

◆LINEを登録してみたら、なかなか良かった。もしかしたら、TwitterよりLINEの方がやっぱりいいのかという印象を持った。【牧野委員】

◇研究していく。【事務局】

◆評価：優 情報収集が良い。【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：良 担当の評価はaとbがあったが、私は良とした。理由は、確かに工夫され、終始提供はされているが、受け手側からしたらどれだけわかりやすかったのかというのが、どこか取り組みの狙いの中でわかると良いと思った。【松川委員】

★評価：良 秘書課へ質問したことについての回答で、積極的に広報した方であるといただいたので、工夫はしているなというふうに思った。Hi あきしまの記事などはすごくわかりやすいと思うので、委員の皆様が言うとおりに、さらに色々な啓発手段を考えていただきたい。【掛川副委員長】

☆評価の決定：優 まだまだ改善点はある。【柴田委員長】

④固定的な性別役割分担意識の解消に向けた啓発の推進

◆評価：可 全体的に進んでいない印象。文言が昨年度と変わっていない課があり、これは何も取り組んでいない、何もやっていないと同じである。【長谷部委員】

◆評価：優 【小林委員】

◆評価：良 事業の費用対効果を検証する必要があるように感じたことから、今後は見学者等の数値集計をし、継続もしくは変更などを判断していく必要があるように感じた。特に若年層には早い時期からの意識づけが重要となるため、時期を失しないよう積極的な啓発を期待する。【向井委員】

◆評価：良 メディアリテラシーの向上は大切な問題だと思う。期待したい。【牧野委員】

◆評価：良 秘書課の冊子の配布数が把握できなかったところをあげている【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：可 良に近い可ではある。小学校なので、現場の子供達に資料として配ってくださると届くが、子供たちはぱっと見るのは見るが、それをワークショップにおいて教員が子供たちにどう普及するかということが、なかなか繋がらないと思う。もちろん指導課の方も色々取り組んでいて「こうしていきましょう」とは言っていますが、実際子供に伝える際に教員達にちょっとアドバイスがあれば良いのかと思う。資料も皆さん工夫して作られていて、どうぞ活用してくださいとは仰るが、活用の際どうするかという部分が現場にある。【松川委員】

★評価：可 とても本当に大事な分野だが、進んでいるかどうかがちよっとこの記載から読み取れなかったというのが正直なところである。【掛川副委員長】

☆評価の決定：良 良とするが、進展が見えない部分もあるためぜひ積極的に進めてほしい。【柴田委員長】

目標 I 2人権・男女平等に関する教育・啓発

① 学校教育における人権・男女平等啓発

◆評価：優 全体的に地道に活動を進めていると考える。【長谷部委員】

◆評価：優 良く進められていると考える。【小林委員】

◆評価：優 忙しい中、積極的にやっただけだと感じた。【向井委員】

◆評価：優 体感的なものだが、一般の大人よりは子ども達の方が人権・男女平等等を理解していると感じる。【牧野委員】

◆評価：優 女性活躍支援担当の情報啓発はできたのかという問いに、Hi あきしまを中学校：2,639部、自治会回覧用：2,439部を配付したとなっている。なかなかの数が配付できたのではないか。【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：良 先生方は努力をされていて、本当に学校現場の先生方はとても頑張ってくださっていると思う。【松川委員】

★評価：優 学校の現場の先生方はとても頑張ってくださっていると思う。Hi あきしまを中学校で配ったというのはとてもいい取り組みだと思うので、良とさせていただきます。【掛川副委員長】

☆評価の決定：優 こちらのほうは順調に進んでいることもあるので、優の評価ということで決定する。【柴田委員長】

②家庭・地域等における人権・男女平等啓発

◆評価：良 男性参加率がアップしている。講座内容も興味深い内容で工夫している。著名な方が講師であれば、もう少し参加率がアップしたかもしれない。【長谷部委員】

◆評価：良 努力していると思う。【小林委員】

◆評価：良 男性への広報展開を積極的に行っているというふうに感じられた。【向井委員】

◆評価：優 男性参加者の割合が高かったことや、講座の内容が良かった。【牧野委員】

◆評価：優 男性参加者が参加できるように工夫を続けてほしい。【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：良 具体的な内容が書かれてはいるが、分かりづらい部分もある。しかし、努力している事は分かる。【松川委員】

★評価：良 工夫されている部分があるが、No.11 福祉総務課は、何をしているのか分からないので、もうちょっと努力をしていただきたい。【掛川副委員長】

☆評価の決定：良 委員の皆様、努力はしていると感じているが、より精緻化する必要があるだろうということで、全体評価良とする。【柴田委員長】

目標 I 3多様性への理解の促進

① 多様性を認め合う意識づくり

◆評価：良 新しい項目であるが、努力は見え、細かな取り組みをされていると思う。【長谷部委員】

◆評価：良 多様性について、もっと踏み込んで良いと思ったが、良とした。【小林委員】

◆評価：可 重要なテーマであるが、人権パネル展のみでどの程度効果があったのか、集計も行われておらず、開催場所も同じ場所であると同じ対象になってしまう。開催方法、展示内容、展示場所を検討していただき今後期待したい。【向井委員】

◆評価：良 勘違いをしていたようである。これは市民全体に多様性を認め合う意識づくりであった。子供達が、小中学校で人権標語や作文を作っていたので、子ども達への意識づくりと思っていた。全市民に向けてということになると、可寄りの良としたい。学校はこの事業への取り組みも結構大変だと思う。作品数も600あまり提出されると思うが、意欲的に実施されている。それなのにロビーで、5日間のみ展示というのが、学校の手間の割に効果がどうなのかと思う。小・中学生にはかなり浸透することはあるかもしれないが、取り組みの割にちょっと効果が少ないと感じる。学校の負担が多い割に、たまたまロビーに5日間の間に来た人だけが見るという効果に疑問が残る。【牧野委員】

◆評価：良 啓発に力を入れている。【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：可 小、中学生に人権全般に関わる啓発を行う場合、多様性を尊重するという事も含めて行うが、人権全体の中で多様性をクローズアップするとすれば、何かもっと取り組み方があるのかと思う。具体的に何をするのか、ということになるとは思う。小、中学生に多様性というと、多様性というよりは、人はどん

な人であろうとお互い尊重しましょうということで、それでいいとは思いますが、市民全体へ、ジェンダーやLGBTのような多様性を啓発となると、取り組みの内容が少し違ってくると思う。【松川委員】

★評価：可 多様性の尊重が実際にどのくらい取り入れられているのか担当課の説明ではよく分からなかったが、多様性について前年度より多く取り上げたと言う事なので、少しは努力されていたのかなというふうには思うが、他の委員もおっしゃっている通り、やはり市役所でのパネル展示だけということになると、広報の手段としては足りないと思われる。【掛川副委員長】

☆評価の決定：良 本項目に関しては新設された、まさに今注目されているものに関してというところで、なかなか難しいところもあるかもしれないが、パネル展示が中心になっている。可よりの良であり、厳しい評価があった点を報告書に記載してほしい。【柴田委員長】

② 性の多様性に関する啓発及び性的マイノリティへの支援の充実

◆評価：可 具体的な取組みを進められている課と、あまり進められていない課が見受けられる。秘書課に対する印象が、他の委員同様、全体を通して啓発活動が進められていない、取り組みが分かりにくいと感じる。逆に女性活躍支援担当は、各項目、分かりやすく書いていると思う。【長谷部委員】

◆評価：良【小林委員】

◆評価：良 新規事業として市職員向けに対する広報誌の発行はとても評価できる。相談体制も整備して対応できるようにしていることなども一定の評価ができる。【向井委員】

◆評価：良 マイノリティ専門の相談体制ではなくても、相談できる窓口があるということと、それを啓発しているということで、良とした。【牧野委員】

◆評価：良 全般的にぜひ努力してほしい。【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：可 先ほどの秘書課と同じように、もう少し具体的な事を検討してほしい。物を配るのみでは物足りないかと思う。【松川委員】

★評価：可 他の委員と重なるが、学校は結構進んでいるように思う。また、女性活躍支援担当は工夫がみられるが、一方、相談窓口については、相談が無いということは、敷居が高い可能性もあるのかとも思う。やはり工夫が必要である。【掛川副委員長】

☆評価の決定：良 全般厳しいコメントをいただいております、進んでいるところと進んでいないところがあるため、検討してもらいたいというコメントを加えていただきたい。【柴田委員長】

目標Ⅱ 4あらゆる分野における女性活躍の推進

① 女性の活躍推進に向けたポジティブ・アクションの普及啓発

◆評価：良 可に近い良である。産業活性課については、あまり具体的な実質的な活動がないように見える。Hi あきしま編集委員は私もやっていたことがあるが、編集会議は今も平日の日中か。【長谷部委員】

◇今はメールのやりとりが多いので、あまり集まることはなくなってきた。【事務局】

◆そのあたりが改善されているのであれば良で良いと考える。【長谷部委員】

◆評価：優 特に問題なく、できていると思う。【小林委員】

◆評価：良 Hi あきしまは工夫されていて、良い広報誌であると思う、編集委員の希望者が少ないというところで、質を落とさないためにも、どのようにすれば委員を持続的に確保できるかというところを検討していただきたい。【向井委員】

◆評価：優 担当課評価も良く、Hi あきしまの内容も良いと思う。【牧野委員】

◆評価：優 検討課題がある、引き続き継続していただきたい。【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：良 産業活性課の課題と今後の予定で、街頭労働相談に代わる啓発活動を検討していくということなので、検討して街頭労働相談に代わる事をぜひやっていただきたい。【松川委員】

★評価：良 街頭労働相談が良かったということであれば、何らかを実施していただきたい。【掛川副委員長】

☆評価の決定：良 街頭労働相談についても継続について検討していただきたい。【柴田委員長】

②女性のキャリア形成に向けた支援

◆評価：良 各課工夫を凝らしていると思う。産業活性課等得意分野であると思うので、継続して工夫してほしい。【長谷部委員】

◆評価：優 【小林委員】

◆評価：良 これからキャリアを形成していく若年層に向け検討してほしい。【向井委員】

◆評価：優 幅広い年齢層が対象になっていると思う。【牧野委員】

◆評価：優 【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：良 学校側としては、特に頑張っておりますので良とした。【松川委員】

★評価：良 引き続き一層の推進を期待する。【掛川副委員長】

☆評価の決定：良 【柴田委員長】

③市職場内及び市主催事業、審議会等における女性参画の推進

◆評価：優 女性職員の比率は全国平均で17%であり、昭島市は28.4%。東京都では1位であり、誇れるのではないかと。【長谷部委員】

◆評価：優 【小林委員】

◆評価：優 目標に対しての効果が見受けられる。実際に勤務している女性職員がどのようなキャリアを希望しているか等の意思確認も必要である。【向井委員】

◆評価：優 数値的にも十分である。【牧野委員】

◆評価：優 【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：優 数値で結果が出ていると考える。【松川委員】

★評価：優 【掛川副委員長】

☆評価の決定：優 全員一致と言うということで、優の評価させていただく。目標が達成されており、東京都1位、全国平均を上回っているというのは、特記して良いと考える。【柴田委員長】

④地域における女性リーダーの育成

◆評価：可 生活コミュニティ課の取組みの意義が問われると思う。さらに次世代リーダーの育成も必要である。【長谷部委員】

◆評価：優 【小林委員】

◆評価：可 市民の立場から厳しく評価させていただいた、努力しており、難しいところであるということには理解しているが、強制的に押し付けるものでもなく、色々な意見を取り入れるためには、根気強く継続していただくようになると思う。【向井委員】

◆評価：良 数値的には良ではないと思うが、前回は話に上がったとおり、市の方では決定権がないということなので、できる部分という促す以外に無いと言われてしまうと、良かと思う。しかし、そもそも自治会等ではもう女性がどうのというよりも維持が難しそうであるので、根本を考えると、数値的には良ではないということは分かっている。【牧野委員】

◆評価：優 教職員への啓発、電話相談、研修の実施等、人権啓発・意識向上のために、やるべき事が多いと考える。【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：可 自治会を母体としてそこからリーダーを発掘していく手立てはあるかもしれないが、母体の自治会自体が地域社会の中でどれぐらいの%を示しているかという点と難しいので、今回は取り組みから評価していくのであろうが、もう根本的に今後の取り組み方を考えていかなければいけないという気がする。学校で言うとPTAもそうである。【松川委員】

★評価：可 確かに自治会について何も決定権がないというのはその通りであるが、前回も同じようなことであったと思う。評価のベースを自治会の役員ということにしてしまうとこれは進みようがないのではないかと感じる。評価のベースを自治会の役員ということにしてしまうとこれは進みようがないのではないかと感じる。No.23 男女共同参画関連登録団体やほかの民間団体等の指標のようなものも何か考えられないのかとご検討いただきたい。【掛川副委員長】

☆評価の決定：可 悩ましい問題だと思う。優の評価の委員も積極的な評価というわけではない。その一方で、自治体の話なのでなかなか反映できないところはあるのではないかと感じるが、今、掛川委員からもありましたが、評価そのものについても再考や、他の民間団体について等そろそろ考えていく時期になるだろうということで、可とさせていただきます。今後検討を要するテーマである。【柴田委員長】

目標Ⅱ 5 働く場におけるワーク・ライフ・バランスの実現

① ワーク・ライフ・バランスを意識した働き方の推進

◆評価：良 職員課、女性活躍支援担当課は取組の内容が具体的でわかりやすい。【長谷部委員】

◆評価：優 【小林委員】

◆評価：良 いずれも継続している事業だが、一定の効果があったと見受けられる。市民に対して働き方の意識改革を推し進める側である行政が、まずは大きく改革していくことが必須である。官民ともに、管理職の意識改革なくして働き方改革はあり得ないため、継続して広報を実施していただきたい。【向井委員】

◆評価：優 このまま継続していけば良いと思う。【牧野委員】

◆評価：良 市内でのセミナーの開催はないのか質問し、東京しごとセンターと共催にて「しごとキャラバン」を市内の昭和館で開催したという回答があった。【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：良 引き続きこの活動を継続していただきたい。【松川委員】

★評価：良 引き続きの継続が望まれる。【掛川副委員長】

☆評価の決定：良 今後益々の継続を希望する。【柴田委員長】

② 事業所におけるワーク・ライフ・バランスについての意識啓発

◆評価：可 情報提供をしているのみで市独自の取り組みが少ないと感じる。No.26「意識として浸透している」とのことだが、主観的な評価にしか見えない。【長谷部委員】

◆評価：良 【小林委員】

◆評価：良 No.28 職員課の育休の取得率について前年よりも減ってしまっている部分について、取得率は下がっているとのことであるが数字だけに固執し、数字だけ上げようとする、中身のない取得になっては本末転倒であり、本当に取りたい人が取得できなかったのであれば、その背景、原因が何だったのかを考えていく必要がある。【向井委員】

◆評価：良 育休を取りたかったけれども取れなかったのか、取りたい人がいなかったのか、その数値目標を達成するために、休みたくないまたは休む必要がない人が休むというのも違うと思う、逆にたった1人でも休みたかった、休む必要がある方がいたりすれば問題なので、ここは数値だけでは判断できないと思う。

【牧野委員】

◆評価：優 努力しなければならないことが多い。【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：良 啓発として、色々情報提供しているのは全体的にどこでも見られるが、実際の声を聞くようなものがあるといいのではないかと感じる。「ライフ・ワーク・バランスはどうですか」というような、質問の仕方は

わかりませんが、その事業所の働いている方々の声を聞くというような事があったとして、それにコメントが返ってくるということは、ライフ・ワーク・バランスに対して意識が高まっているということかもしれないし、それにコメントすら返ってこないということは、その事業所において、ライフ・ワーク・バランスを考える、もしくは声を上げるということ自体が、まだ定着していないということになると思うので、何かそのような現場の人の声が反映されるような取り組みがあっても良いと思う。【松川委員】

★評価：良 可に近い良である。啓発はそれなりに実施しているが、例えば産業活性課では、実施は困難な様子が見受けられると書いてあり、実施困難と思うのであればどう工夫をすれば実施できるか、さらにどう考えるのかというところを検討していただきたいと思う。No.28 職員課の育休取得職員が減ってしまったという原因の部分で、情報提供不足が考えられますというコメントであったので、これによっても育休が取れなかったとするならば、やはりまだ努力は必要だと思う。【掛川副委員長】

☆評価の決定：良 検討点が多く、且つ努力をせねばならないところである。貴重なご意見をたくさんいただいたので、このご意見を丁寧に記載していただくということで、それを条件に良ということでまとめさせていただきます。【柴田委員長】

目標Ⅱ 6 家庭生活におけるワーク・ライフ・バランスの実現

① 子育て支援サービスの推進

◆評価：優 コロナ禍という社会情勢の中だったと思うが、どの課も工夫をしている。昭島市の人口を増やしていくために必要な施策だと思う。また、現場の保育士の方から病児保育施設が足りていないというご意見があった。【長谷部委員】

◆評価：優 良いと思う【小林委員】

◆評価：優 P D C Aを継続していただきたい。【向井委員】

◆評価：優 若い世代へのサービスが増えて良いと思う。【牧野委員】

◆評価：良 たくさんの検討事項があるのでぜひ取り上げていただきたい。【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：優 本当に努力していただいている。もちろん改善点はあると思うが、子育てに携わっている親がサポートされると、結果として、子供が生き生きと生活できるので、そのゆとりが次世代の男女平等などに、繋がることになるので、ぜひこういった取り組みを続けてほしい。【松川委員】

★評価：良 努力もされているし、だいぶ進んでいる部分はあるが、一部希望に応えられていない部分がある。【掛川副委員長】

☆評価の決定：優 改善点はあるが、努力は認められる。【柴田委員長】

② 介護支援サービスの推進

◆評価：可 コロナ禍とのことで今年度に期待したい。【長谷部委員】

◆評価：良 今後、事業が出来ていくと良いと思う。【小林委員】

◆評価：可 コロナ禍の後に期待したいと思う。【向井委員】

◆評価：可 相談件数は多いので、今後期待したい。【牧野委員】

◆評価：良 今後も支援をしていかなければならない。【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：可 コロナ禍で努力をされていることが読み取れた。【松川委員】

★評価：可 コロナ禍であったため、引き続きの取り組みに期待したい。【掛川副委員長】

☆評価の決定：可 現状は可である、ぜひ今後期待すると記載していただきたい。【柴田委員長】

③ 男性の家事・育児・介護等の参画の環境整備

◆評価：良 ますます今後重要になってくる部分であるので、対応いただきたい。【長谷部委員】

◆評価：優 【小林委員】

◆評価：良 d 評価は1つあるが、ほかの事業がコロナ禍でも展開できていた。【向井委員】

◆評価：優 【牧野委員】

◆評価：良 セミナー等の実施について評価する。【若林委員（柴田委員長代読）】

◆評価：良 セミナーの参加は親が対象だと思うが、子どもも一緒に参加できると、理解できるかどうかはおいても、父親が参加し、話を聞いていたということが、摺りこみではないが広い意味での教育、啓発につながっていく、そういう開催の仕方もあるかと思う。【松川委員】

★評価：優 開催出来ている部分を評価した。【掛川副委員長】

☆評価の決定：良 評価できるところもあるが、まだまだの部分もある。委員から良いアイデアも頂いたので記載していただきたい。【柴田委員長】

3 その他

事務連絡

◇第5回委員会は、8月9日(水)午後6時30分から201会議室にて開催。

～閉会～